

# 平成 17 年度の埼玉県のごみ処理経費について

環境省データより

ごみを知ろう委員会  
中澤啓子

## 目的は

統計的な資料に基づく原価の計算をすることにより、取り組みの違いやその良さに気づいていただくこと。また、自治体お任せでなく自分達にできることは何かを資料を参考に考えていただきたいということです。

## 方法は

平成 19 年 6 月に環境省のホームページ『一般廃棄物処理実態調査結果』のごみ処理に関するデータが更新されましたので、その統計資料を利用し、埼玉県のごみ処理経費を考察してみました。

データの方は環境省のホームページ

[http://www.env.go.jp/recycle/waste\\_tech/index.html](http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/index.html)

ここに日本全国にアンケートをした結果が公表されています。このアドレスは資料集の方に書いてありますので、おうちに帰られてからアクセスしてみてください。

ここで一般廃棄物というのは、平たく言いますと、普通の生活をしていていらなくなったもので、ごみとし尿のことです。ごみの中には市町村で行っている資源回収品やリサイクル品も含まれています。また、その処理は市町村が行うことになっています。

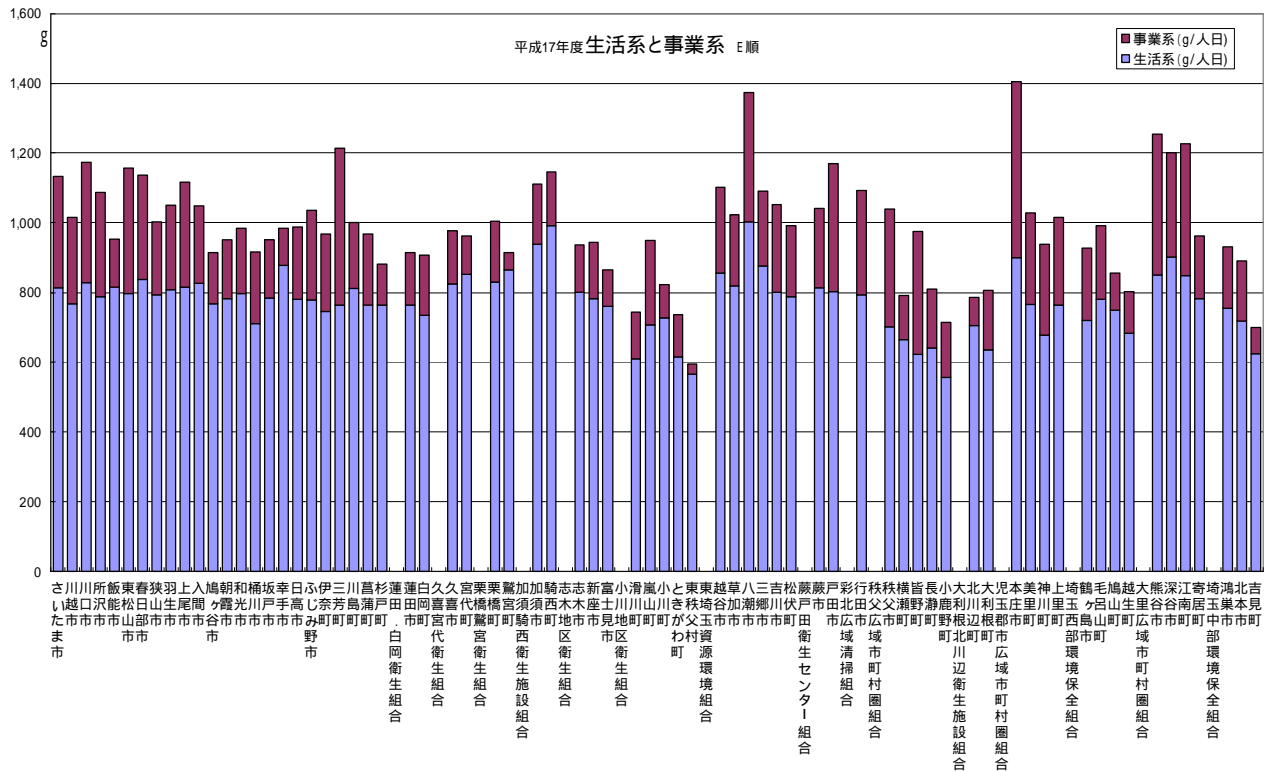
中小の事業所から出るごみも一緒に処理を行っており、事業系のごみとして収集され、埼玉県のどこの市町村も有料で処理しています。(手数料が同じかどうかはわかりませんが)一方皆さんのご家庭から出るごみは生活系と呼ばれています。

この環境省のデータの中から、埼玉県のごみに関する処理及び維持管理費を抜き出し、他の統計資料とあわせて解析しました。抜き出して再計算したデータは資料集の 7 ~ 8 ページにあります。印刷物で差し上げられるのはこれだけですので、字が大変小さくて申し訳ないのですが、新聞の株式欄と同じくらいかなあ？と思いますので虫眼鏡を使ってみてください。ご利用いただければうれしいです。

## 1、一人当たりの原価について

埼玉県内の 71 自治体全部のデータが一度に入手できれば、まず、わが町の処理費は高いのだろうか安いのだろうか？ また平均は？ 等々が気になると思います。しかし、市町村の規模が大変に違います。たとえばさいたま市は 100 万人以上の人口がありますし、5 千人ほどの人口の村もあります。そこで一人当たりの費用を出してみました。資料集 2 ページのグラフです。





縦軸が量が単位はg。下の青い部分が生活系のごみの量です。環境省の統計では埼玉の平均は約800g。その上の小豆色の部分が事業系のごみの量で平均は約250gちょっとです。

しかし、このグラフと先ほどのグラフを比べて見ますと、必ずしも多い所が高いわけではありませんでした。むしろ抑えられている所もあります。たとえば本庄市とか、八潮市とか。確かに事業系のごみは有料で処理していますのでこの量が多ければ多少の収入にはなります。しかし、それだけで決まる訳でもなさそうです。

また普通に生活していたらそれほど変わりはないのではなかろうか？暮らしぶりがそんなに違うのかなあ・・・？と疑問がわいてきました。生活系だけでも平均より約200g位多いところもあります。さっき計算しましたら一日200g違うと年間70kg以上になりますよね。と言う事で、本庄市と八潮市それから三芳町に事情を聞いてみました。

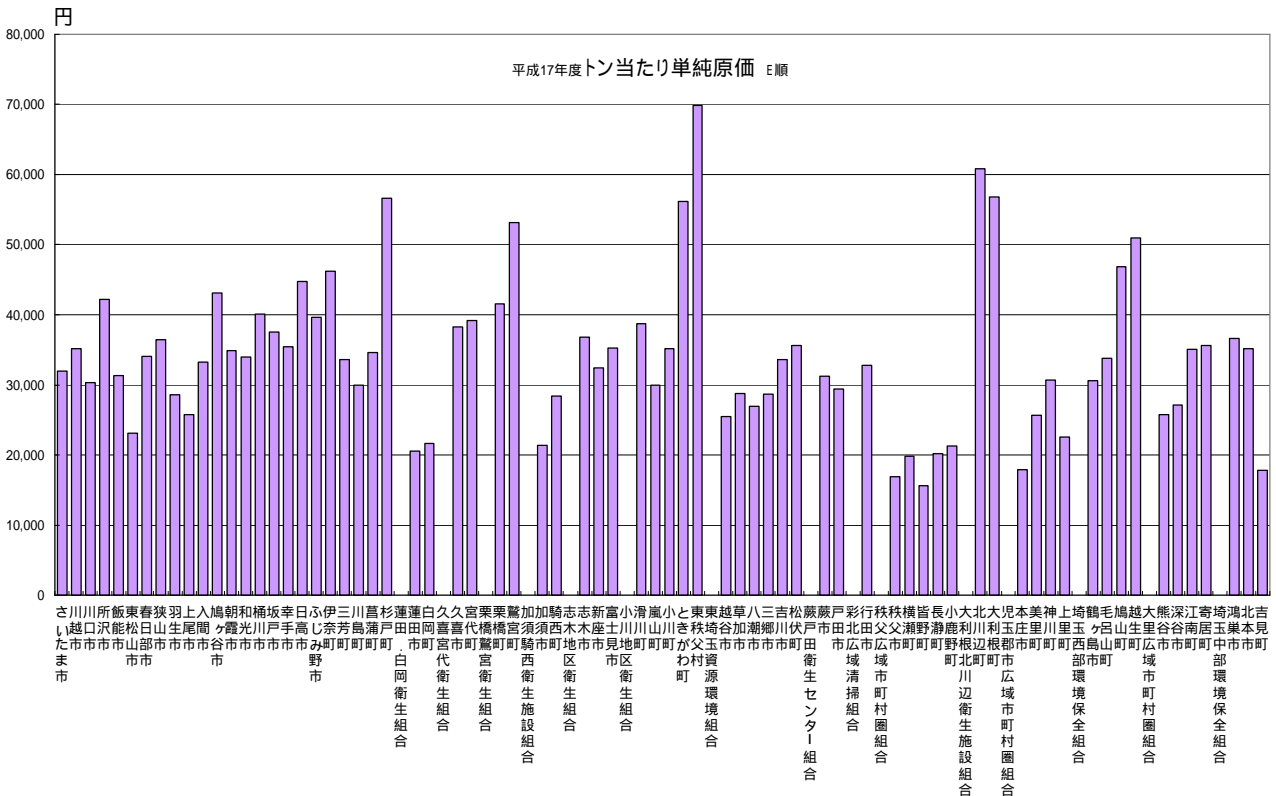
本庄市 何で多いのか判らないのだそうです。平成16年度も多かったんですが。

八潮市 人口7万人ほど東京に近く事業所の数が川口に次いで多いのだそうです。さらに「もしかしたら中小の事業所からのごみが生活系に紛れ込んでしまっているのではないか？」と市役所の方が仰っていました。

三芳町 やはり事業所が多い。狭山と同じくらいあるのだそうです。また東京に近く、大きな道路が通っているので不法投棄も多く大変です。と仰っていました。人口3~4万人ほどのところには大きく響くでしょう。そこで、私は一週間に一度関越道の三芳パーキングエリアに寄りますので「関越道のパーキングのごみはどうなっているのでしょうか？」と恐るおそる聞いて見ました。案の定、三芳のPAのごみは三芳町のごみとして処理しているのだそうです。ということは私が捨てたごみが事業系のごみとして三芳町のこの小豆色の部分に載ってしまった。反省です。

### 3、トン当たり単純原価

確かに経済効率から考えるとごみは多く処理した方が原価は安くなるでしょう。そこでトン当たりの原価を出してみました。資料集の方戻って3ページです。



やはり、先ほどごみの量の少なかった東秩父村や大利根町、北川辺町は原価が高くなっていました。一生懸命ごみ減量に努めていらっしゃるのにお気の毒。では何に一番かかっているのでしょうか？

### 4、トン当たり処理原価（費目別内訳）

そこで費目別に原価を出して積み上げグラフにしてみました。（費目というのは用途によって分類した費用のことです。）

このグラフは色が付いていないと細かくて見えにくいので別刷りにして持って来ました。お配りした資料の中に挟んであります。

環境省のデータの方も平成 17 年度からは委託費用もそれぞれの費目で分けられて集計されていました。そこで費目を役所の部分と委託の部分と併せて計算しトン当たりで原価を出しました。

グラフの説明をします。

グラフは他のグラフと同様、縦が原価で単位は円。横にE順で自治体を並べました。

一番下から肌色の部分人件費です。その上の小豆色の部分収集運搬費。その上の薄黄色の部分中間処理費です。中間処理というのは焼却ごみだったら焼却のこと、容器品でしたら減容することです。

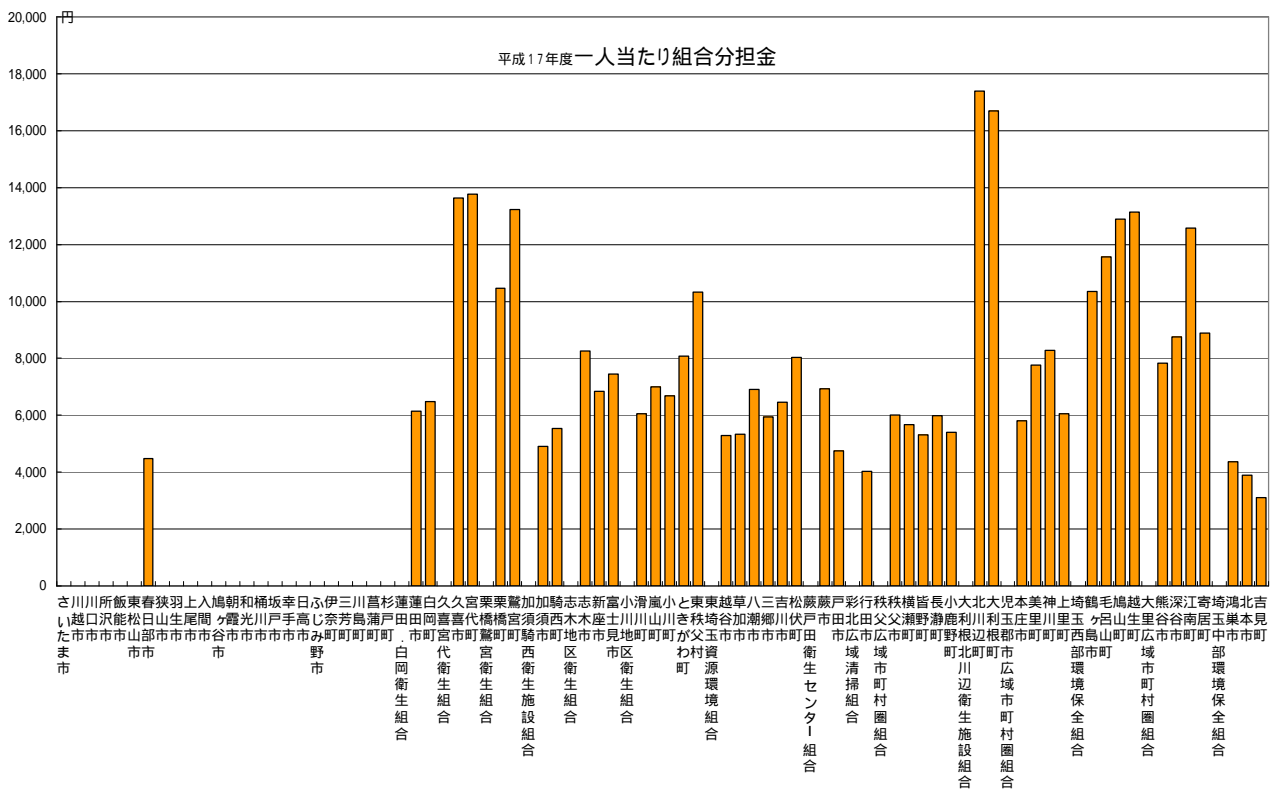






## 6、一人当たり組合分担金

というところでもう一度。先ほど見えにくくなっているなんて言ってしまった組合分担金を一人当たりでグラフにしてみました。資料集5ページです。



一番右の方からもう一度説明しますと

焼却しかしていない中部環境、容り品まで回収し処理している西部環境、人口の少ない大利根・北川辺、リサイクルはビン・缶・紙までの秩父広域、等々。

ご自分の関係するところにターゲットを当てて見ていただきたいと思います。

組合の取り組みはそれぞれ違います。組合内部の約束もあります。

不当に高い訳ではないのです。

こういう状況の中でより良い処理をしていくにはどうしたらよいかを皆さんに考えていただくためにこんなデータを提出させていただきました。

ということで、よそはどのように取り組んでいるのかということ、今日は久喜・宮代衛生組合と蓮田白岡衛生組合の方においでいただいています。経費のことや組合の処理に関する考え方などをお話して戴きたいと思います。よろしくお願ひいたします。

以上です。